

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	医療福祉学分野
学籍番号		院生氏名	川口容子
通学キャンパス			
論文題目	高齢者の居場所としてのコミュニティカフェの検討 - 利用者・ボランティア・代表者の3つの視点から -		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>諸外国のなかでも社会的孤立が深刻化する我が国において、とりわけ都市部で暮らす高齢者の孤立が喫緊の課題となっている。他方、大都市圏における高齢者の居場所としての取組みにコミュニティカフェがあり、その数は増加傾向にある。</p> <p>本研究は、大都市に暮らす高齢者の社会的孤立防止にかかわる課題を、社会的孤立防止の施策の一つに位置付けられているコミュニティカフェの意義と期待の観点から明らかにするとともに、社会的孤立の防止に向けた地域における実践の示唆を得ることを目的とするものである。</p> <p>研究は①ほっと安心カフェに関する3つの視点からの調査と検討（現場調査、利用者・ボランティア・代表者によるインタビュー調査からの質的データと利用者のアンケート調査の量的データを組み合わせたトライアングレーション手法）、②他の2つのカフェの代表者に対するインタビュー調査からなり、国際医療福祉大学倫理委員会の承認を得て実施されている（15-1g-5）。</p> <p>トライアングレーション手法の適切な利用により、利用者である高齢者とコミュニティカフェのボランティア・代表者という3つの視点から「ほっと安心カフェ」の肯定的な意義とそれを支える機能を明らかにするとともに、他のカフェとの比較検討も踏まえ、コミュニティカフェのもつ地域や近隣との「自由でゆるい関係」が社会的孤立防止や自立への一助になると結論づける。</p> <p>本研究は、対象地域における3年半に及ぶフィールドワークを含む丹念な質的・量的データの収集に基づき、コミュニティカフェの役割を従来はない3つの視点から検討し、その最大公約数的な特徴を「ゆるい関係」に見出しており、社会的孤立防止の諸施策展開のうえでも運営やプログラムの硬直化を避けるという極めて重要な示唆を投げかけるものとして高く評価できる。</p> <p>審査会は1回開催し、口頭試問において適切な応答があり、初回審査での修正に対して適切な対応がなされた。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は、本論文が著者に博士の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	堀田 聡子	
	副 査	亀口 憲治	
	副 査	中村 秀一	